





# 祝 プラネタリウム 100周年(2)

前号(7月号 No.295)からの続き

白井プラネは来年30周年!

下記写真 出典 "Photo: Courtesy of ZEISS"

イエナ プラネタリウムドーム内の様子

プラネタリウム機器の設置場所の空だけでなく、希望する世界中の地域と日時(せいかいじゅう ちいき にちじ)の空を映し出すことが可能なプラネタリウム、カールツァイスⅡ型が誕生したのは1926年です。この機器は現在とほぼ同じ機能を持つプラネタリウムです。プラネタリウム初号機が公開された1925年から僅か1年で、地球の自転軸の回転(歳差運動を表現する機能)を手に入れました。日本で初めてのプラネタリウムは、このカールツァイスⅡ型で1937年、大阪市立電気科学館(大阪市立科学館の前身)に設置されました(1989年まで)。1938年には東京有楽町に東日天文館が開館し、大阪と同型機が設置されましたが、第二次世界大戦の空襲で1945年に焼失しました。つづ



大阪府立電気科学館(大阪市立科学館の前身)に設置されました(1989年まで)。1938年には東京有楽町に東日天文館が開館し、大阪と同型機が設置されましたが、第二次世界大戦の空襲で1945年に焼失しました。つづ

## ペルセウス座流星群の流れ星を見よう!

詳しく解説する投映 8月11日(金)~13日(日) 13:30

【今年の見ごろ】白井のような郊外(肉眼で4等級まで見える空)

8月12日深夜から13日夜明け 1時間当たり6個~10個

8月13日深夜から14日夜明け 1時間当たり10個~13個

上記データは「流星観測家 佐藤幹哉さんのホームページ」から

毎年、旧盆のころ「ペルセウス座流星群」の流れ星を見ることが出来ます。下記写真で車が流れ星とすると、道幅は平行ですが、目の錯覚で1点から車が飛び出して来るように見えます。飛び出すように見える場所(放射点または輻射点)がペルセウス座にあるので、「ペルセウス座」流星群と呼ばれます(下図の★が放射点)。ペルセウス座は旧盆のころ、東にその姿を全部見せるのが21:00ごろで、一晩中流れ星を見ることが出来ます。どの方向にも流れ星は飛ぶので、ペルセウス座の方向を向かなくても大丈夫です。一番良いのは仰向けに寝ることです。夏でも夜は冷えるので防寒と虫よけ、夜食も用意して、天体ショーを楽しみましょう!



## スター・ウィーク2023

今年のキャッチコピー

この星空、  
ひとりで見るには  
もったいない。

## でんとうきたなばた 伝統的七夕

今年は8月22日

ドーム前の笹飾り  
は、この日まで飾  
ります。

## 今月の見どころの重星連星天体

### アルピレオ(はくちょう座)

くちばしの星。オレンジ3等と青5等の星が寄り添うように輝きます。

### こと座 ε 星 ダブルダブルスター

双眼鏡では二重星、望遠鏡で見ると四重星。二重星(ε 1、ε 2)のそれぞれがさらに二重星。ε 1は5.0等と6.1等、ε 2は5.1等と5.4等の連星系。

### いるか座 γ 星

黄色の4.3等と青色の5.2等の二重星。

### ラスアルゲチ(ヘルクレス座)

大きさが太陽の約800倍といわれている赤色巨星。連星で、5.4等の伴星があります。

## しろいメール配信サービスに登録しましょう

下のQRコードで登録してください。イベントの前にメールが届きます。

- ◎コンサート情報
- ◎イベント講座情報
- ◎文化センターイベント情報

